

6. 推進体制

- 推進体制
- 推進方法
- DX推進のグランドルール5箇条

6-1 推進体制

本計画の推進にあたっては、職員一人一人がDXミッションとビジョンを理解・共有し、行政改革、情報政策をはじめ、各部署が連携し、外部専門人材の知見も活用しながら革新的な施策を創造していく全庁横断的な組織体制が不可欠であり、以下の庁内推進体制とします。

(1)本部会議

重要施策の決定組織

<主な役割>

- 推進方策の決定
- 重要施策及び事業の推進
- 関係機関及び団体との調整

(2)連絡会議

本部会議で決定した重要施策の推進組織

<主な役割>

- 重要施策及び事業の推進
- 推進方策及び事業の調整

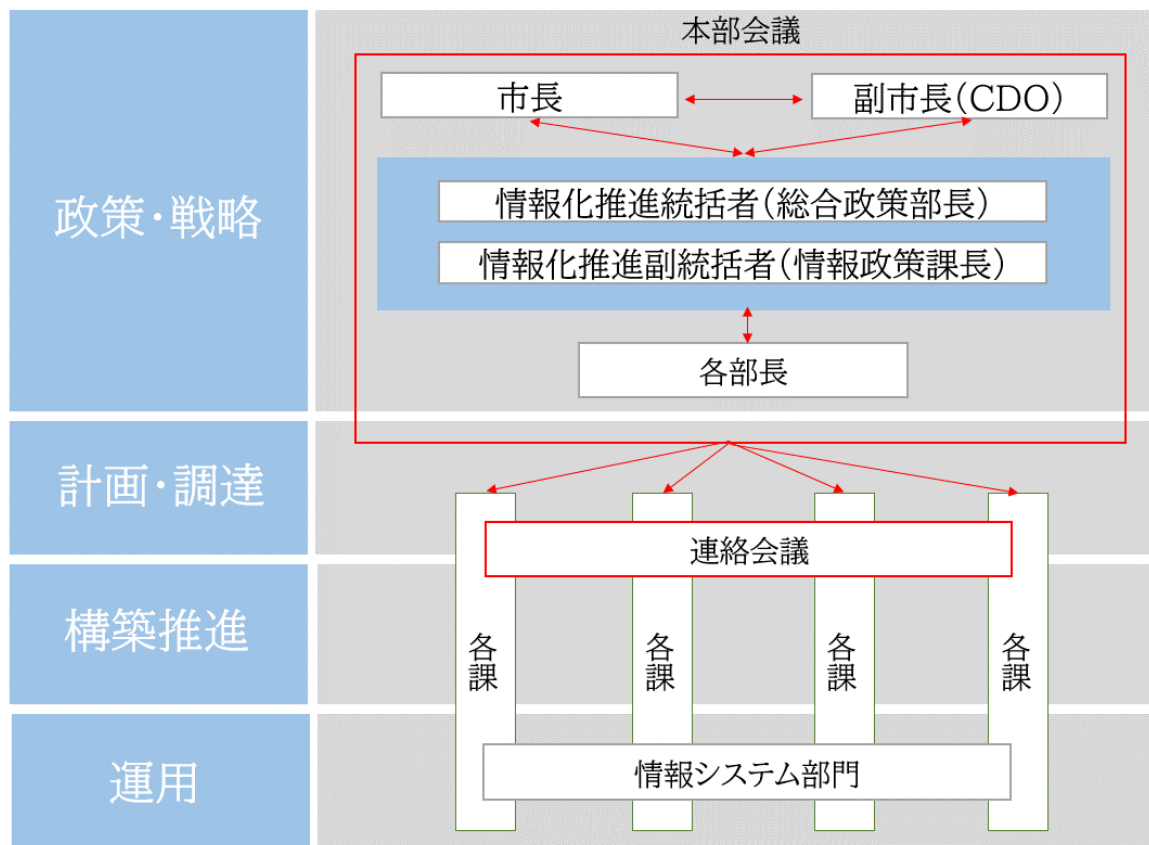
(3)DX推進員・DX協力員

各課においてDX推進の中心となる職員

<主な役割>

- 計画の推進
- 情報化に係る施策及び事業の実施の支援

【推進体制図】



令和7年度に目標達成

6-2 推進方法

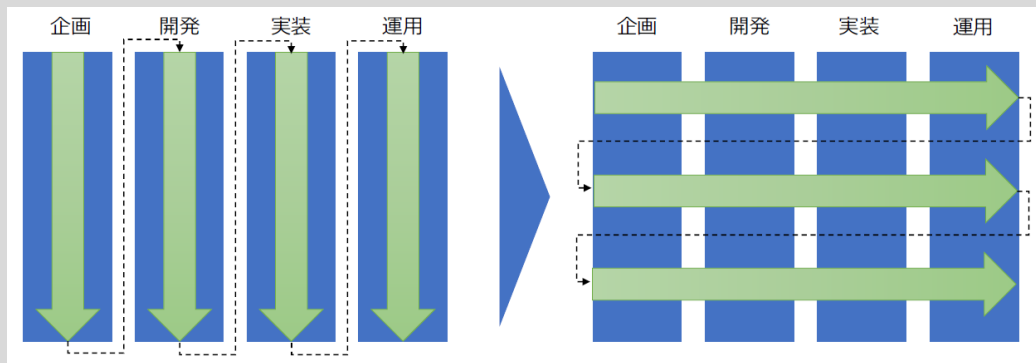
市民の誰もが住みやすい魅力ある都市を共に創り続けていく必要があり、あらゆる主語を“市民”にすれば、全ての部署で市民に享受する価値提供に参与していることから、真岡市は全庁でDXに取り組むとともに、下記の3つの思考をもとに新たなサービス・価値の創出と変革を目指します。

サービス・デザイン思考

日々変化する社会情勢や市民のニーズを的確に捉えて、新たなサービスを生み出すとともに地域の現状に最適な全体像をデザインします。

階層型思考

各プロセスを深掘りする「深掘り型思考」から、常に全体を検討する「階層（重ね塗り）型思考」にすることで、“部分”を精緻に積み上げるのではなく、常に“全体”を検討し、その結果から得られた知見をもとに、次の“全体”検討を進めていくという思考へ切り替えます。

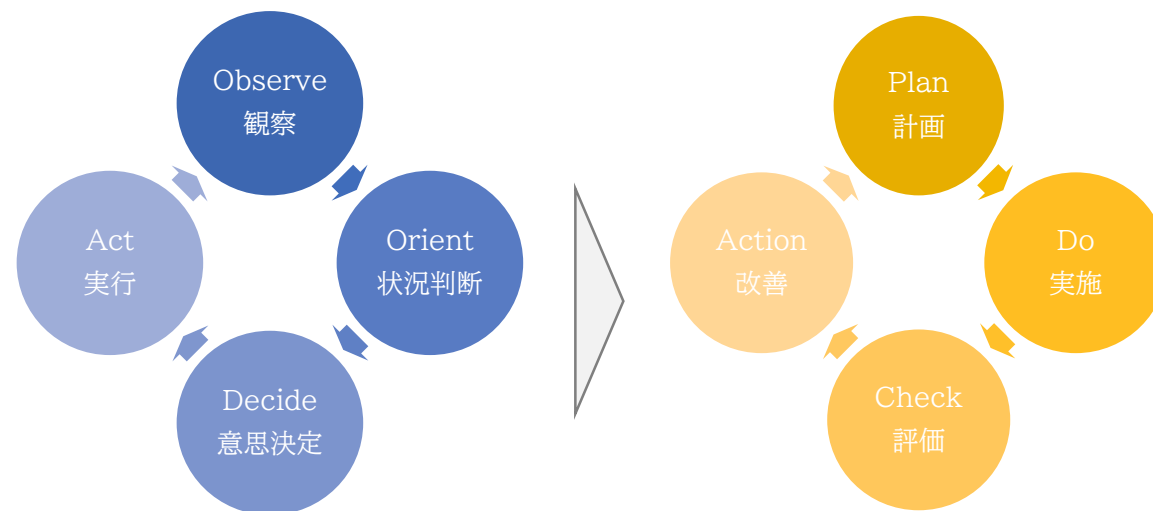


アジャイル思考

目まぐるしい変化にスピーディに対応し、失敗を恐れずチャレンジし、勇気をもって現状を変革します。

PDCAサイクルとOODAループによる進捗管理

計画の推進にあたっては、計画が曖昧なものでは実施・評価・改善とまわることはありません。まずは計画が重要であること、またその一方で、社会情勢や技術動向等の急速な変化に対しては、計画自体が陳腐化することも想定されるため、変化の状況を観察し、素早く判断して臨機応変に対応します。



財政負担の考え方

- ・既存のシステム・機器の更新時期を捉え、重複投資のないよう計画的に事業を進めます。
- ・国の方針やロードマップに沿って進める事業（計画期限や地方財政措置があるもの）とそれ以外の事業を分けて検討します。
- ・毎年度の予算編成作業を通じて、庁内横断的かつ戦略的な投資を推進します。

6-3 DX推進のグランドルール5箇条

真岡市DX戦略計画の各施策を実行する際には、下記のグランドルールを念頭に実施するものとします。

第1条 **“職員一人一人”**が自ら**“当事者性”**をもって**“市民目線”**で取り組みます！

どんな制約があろうとも**“我がゴト”**として捉え行動します。
あくまでも主語は**“市民”**であることを忘れず、市民目線を貫きます。

第2条 手段ではなく**“目的”**のためにデジタル化します！

“市民の幸福”と**“市の発展”**のためにデジタル化します。

第3条 市民にとってのメリットを**“享受”**し続けます！

デジタル化による**“恩恵”**は何か、を市民にわかりやすく伝えます。

第4条 **“市役所のスリム化”**を目指します！

非効率で無駄な部分はデジタル化せず、**“業務改革と一緒”**に取組みます。

第5条 できない理由ではなく**“できる理由”**を考えます！

ありとあらゆる可能性を探求します。

7. 用語集

用語	意味
AI	artificial intelligence 人間が持っている、認識や推論などの能力をコンピューターでも可能にするための技術の総称
AI-OCR	AI(Artificial Intelligence -Optical Character Recognition/Reader: 手書きの書類や帳票の読み取りを行い、データ化するOCRへAI技術を活用する新たなOCR処理のこと
BPR	Business Process Re-engineering 業務プロセス改革のために、業務内容やフロー、組織の構造などを根本的に見直し、再設計・再構築すること
BYOD	(Bring Your Own Device):個人が所有するパソコン、タブレット、スマートフォンなどの端末を業務上で活用すること
CIO	Chief Information Officer 最高情報責任者、または情報統括役員の意。システムや情報流通を統括する責任者のこと
CVCA分析	価値の流れを分析する手法のこと
EBPM	Evidence based policy making データ等の証拠(エビデンス)を活用して、効果的・効率的な政策立案及び運営を目指す取り組みのこと
Miro	チームの共同作業を支援するWEB上のホワイトボードサービスのこと
ICT	Information and Communication Technology 情報・通信に関する技術の総称。従来から使われている「IT(Information Technology)」に代わる言葉として使われている
IoT	Internet of Things 様々な物(機械や家電など)がインターネットに接続され、人を介さずに情報交換することにより相互に制御する技術
IT	Information Technology 「情報技術」のことで、コンピューターやデータ通信に関する技術の総称。その言葉の意味は広く、情報通信分野の基礎技術から応用技術の範囲にまで及ぶ。現在は、「ICT」という用語が使われることも多い
OODAループ	観察(Observe)、情勢判断(Orient)、意思決定(Decide)、行動(Act)の頭文字を取った言葉で、ウーダループという。現場が起点となり、素早く臨機応変に対応することで、結果として現場の問題解決能力が向上することが期待されます 行動プロセスの枠組みのひとつ。Plan(計画)、Do(実行)、Check(確認)、Action(行動)の4つで構成されていることから、PDCAという名称になっている
PDCAサイクル	Plan(計画)、Do(実行)、Check(確認)、Action(行動)の4つで構成されていることから、PDCAという名称になっている
RPA	Robotic Process Automation ソフトウェアロボットによる事務処理の自動化のこと
SNS	Social Networking Service 交友関係を構築するWebサービスのひとつ。誰でも参加できる一般的な掲示板やフォーラムとは異なり、すでに加入している人からの紹介で参加できる
UI	user interface ユーザーとコンピューターの間で情報の受け渡しを行うもの。ハードウェアではキーボードやマウス、ディスプレイなどを指し、ソフトウェアでは画面上でボタンをクリックするなどの操作方法を指す。使いやすいコンピューターを開発するために重要視される
UX	user experience ユーザーがひとつの製品・サービスを通じて得られる体験のこと

用語	意味
アークティチャ	コンピューターやソフトウェア、システム等の構成要素などにおける基本設計や共通仕様、設計思想などのこと
エンドツーエンド	端から端までの意味で、サービスを受ける必要が生じたときからサービスの提供後までのことをいう
オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用(加工、編集、再配布等)できるよう公開されたデータのこと
コネクテッド・ワンストップ	民間サービスとの連携も含めどこでも一カ所ですべてのサービスを実現すること
コンテキスト分析	背景分析のこと
スマートワーク	ICTを活用して業務を効率化したり、従来できなかった場所で働くなど新しい働き方のこと
セキュリティポリシー	情報の機密性や完全性、可用性を維持していくために規定する組織の方針や行動指針をまとめたもの
チャットボット	チャットボット:短いメッセージ通信(チャット)を使い、簡単な問い合わせをコンピューターが自動で回答するサービス
デジタルデバインド	パソコンやインターネット等の情報技術を利用する能力及びアクセスする機会を持つ人と持たない人との間に情報格差が生じる問題のこと
デジタルネイティブ	生まれたときからインターネットが身近にある世代
デジタルファースト	行政手続きをデジタルだけで完結させるという考え方のこと
テレワーク	tele(離れたところ)とwork(働く)を合わせた造語。在宅勤務、サテライト勤務など情報通信技術を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方
ビッグデータ	一般的なシステムでは扱うことが困難なほど巨大なデータ群
ユースケース分析	必要な機能の図解術のこと
ワンスオンリー	申請者に同一の情報の提供を求めないという考え方のこと





真岡市
総合政策部 情報政策課

〒321-4395 栃木県真岡市荒町5191番地
電話 0285-83-8496
E-Mail jouhou@city.moka.lg.jp

令和4年3月